

# 平成25年度 事業報告書

ハーバー大慈

## 1. <法人ヴィジョン>

- ①経営の強化
- ②サービスの質の向上
- ③教育システムの充実

## 2. <基本方針>

- ①児童福祉法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」に基づき利用者の人権を尊重する。
- ②利用者に対し、適切な自立への支援を行う。

### <入居者の異動利用状況>

区分		月別												計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
初日在籍数		20	19	19	18	20	19	19	20	20	20	20	20	234
		47	45	46	43	47	45	45	47	47	47	47	47	553
入所	夫の酒乱 暴行									1			1	
										2			2	
	住宅 喪失				1	1			1	1			4	
					2	2			2	2			8	
	その他			1									1	2
			3									2	5	
退所	公営住宅 入居									1			1	
										2			2	
	民間住宅 入居	1	1	1		1			1			1	6	
		2	2	3		2			2			3	14	
	復縁 再婚													
その他														
短期保護	母子				2			2	1				5	
					4			4	2				10	
	婦人		1	1									2	

(数字の上段は世帯数、下段は人数)

母子婦人短期保護の母子家庭は、5世帯10名 婦人は2名 延人員12名だった。

### 3. <目標>

①各入所者の自立へのプロセスを明確にし、ニーズに沿った支援をする。

- A) 入所時、入所後にケースワークを行い、母子と相談した上で、自立に向けた目標やプランを設定する。
- B) 入所者の精神の安定を図る為に、必要に応じてケースワークの回数を増やす。
- C) 金銭管理が必要な場合、金銭の預かりを行う。
- D) 児童にとって、より良い養育の為に支援を行う。
  - ・小、中学生の学力向上の為に勉強会。
  - ・母親への経済的自立への支援（子どもの病時保育等）。

今年度は入所者に、自立するにはどういった目標を立てれば良いか、また、その目標を達成する為にどの様なプロセスを歩んで行けば良いか、という事を共有してもらう為に、ケースワーク等を通し、一緒に目標を立てた。その結果、本人の意思が加わる事で本当に必要な支援が明確化され、自立に向けた金銭の預かり支援や、仕事や資格取得時の日曜、祝日の子どもの預かり支援等を行った。しかし、全入所者と、まだそういった話しが出来ていない事や、支援面での職員の共通の意識という点では課題を感じるため、来年度以降も引き続き、“自立へのプロセスの明確化”をテーマに、入所者と話しをしていきたい。

②職員の資質の向上。

- A) 各職員が、自分自身の資質を理解し、資質向上に必要な研修に積極的に参加する。
- B) 各職員が自ら考え、行動出来る様に、会議等を通し、価値観の共有化を図る。

職員の資質向上を図る為に、昨年度に引き続き、月1回、全職員を対象に講師を招き、コーチング（心理）研修を施設内で行った。職員からは、「研修で学んだ事を実際に現場で使い、効果があった」や「昨年度より、自分のスキルとして使う事が出来ている」という声が挙がっており、昨年度より研修の効果が感じられるので、来年度も入所者に、より質の高い支援が行える様、資質向上に努めていきたい。また、職員が自ら考え、行動出来る様に、会議等を通し、価値観の共有化も引き続き積極的に行っていきたい。

③リフレッシュ保育事業を通して、子育て支援を行う。

- A) 日曜、祝日の利用者が多いので、職員の出勤人数を増やし、受け入れの枠を広げる。
- B) リフレッシュ保育事業の広報活動。（広告の配布やインターネットへの掲載）

リフレッシュ保育利用者のニーズに応える為に、今年度は依頼が多い、祝日の職員の出勤人数（宿直者以外）を1名→2名にし、受け入れの枠を広げた。実際の利用者は、それ程おらず、直接的な大きな効果はあまりなかったが、母子生活支援施設という機能だけではなく、地域での子育て支援という機能も果たせる様、日頃より子育てに関するニーズの把握に努め、人員配置等、可能な範囲で地域貢献に努めていきたい。

※祝日のリフレッシュ保育利用者数については、“10. <リフレッシュ保育>”を参照。

### 4. <健康診断>

種類	職員	母親	児童
一般健康診断	年2回	年1回	年1回
検便（O-157）	月1回	—	—

### 5. <保健衛生>

害虫駆除を行った。（各居室・短期保護室・事務所・集会室・宿直室）  
業者に依頼し、各居室の排水管清掃（台所、浴室、洗濯機置場）と施設内の廊下掃除を行った。

## 6. 《広報》

毎月、施設新聞を利用者、関係機関に配布した。  
内容等の変更があったので、ホームページをリニューアルした。

## 7. 《行事内容》

### ①いちご狩り

→大慈吉祥園より招待を受け、参加した。職員が引率し、幼児のみの参加だったが、今まで幼児のみの行事というのは、あまりなかったので、コミュニケーションが取れる良い機会になった。現在、幼児の数が多いので、来年度は、幼児を対象とした行事等も今回の事を踏まえ、考えていきたい。

### ②個別対応遊び（月1回）

→昨年、全体的に参加者が少なかった為、去年の反省を活かし、今年度は内容の充実を図った。施設内だけではなく、大きな公園や牧場等の施設外に出たり、内容によっては男女で分かれて行う等の工夫をした為、昨年よりも参加者が増えた。来年度も個別に対応が必要な児童と密に、コミュニケーションが取れる様、内容の充実を図り、行事を遂行していきたい。

### ③ハロウィンパーティー

→今年度、初めて試みた行事で、お菓子を配るだけではなく、施設全体を使ったゲームを交えて行った。しっかりと仮装してくる児童等、職員の想像以上に「楽しかった」という声が入所者よりあったので、来年度も今年度の反省を活かし、行いたい。

### ④母子生活支援施設協議会（新春母と子の集い）

→今年度は演目で、エイサーをした。7施設参加している中で、見事1位をとる事が出来た。その背景には、入所者が積極的に練習に参加してくれたという努力の結晶があり、職員と入所者の思いが合わさり、1つの目標に向かっていった事が大きかったと思う。今後もこういった行事を通し、職員と入所者の信頼関係を築いていきたい。

○月極・・・母の会・避難訓練

## ○年間行事

月	日	行事	月	日	行事
4	8	昼食会	9	2	昼食会
	20	個別対応遊び（お弁当作り・太陽公園）		7	個別対応遊び（チョコレートフォンデュ・味覚狩り）
	27	昼食会		8	母子生活支援施設協議会 バス旅行（東条湖おもちゃ王国）
5	11	昼食会	14	5	昼食会
	12	母子生活支援施設協議会		12	個別対応遊び（姫路城見学・お菓子作り）
	18	母と子の運動会（湊小学校） 桧山シート招待 個別対応遊び（バトミントン・ナフキン、給食袋作り）	21	19	昼食会
	25	昼食会		20	児童エンジョイ（王子動物園・ひらかたパーク）
	29	いちご狩り		31	ハロウィンパーティー
6	2	親子エンジョイ（和歌山アドベンチャーワールド）	11	3	アイススケート招待
	4	害虫駆除		9	昼食会 個別対応遊び（ボーリング）
	8	昼食会		17	昼食会
	9	卓球大会	30	OB会	
	23	昼食会		昼食会	
	29	個別対応遊び（七夕の笹取り・飾り付け）		施設内忘年会	
7	5	七夕（鮭寿司・豚汁）	12	7	昼食会
	19	昼食会		14	施設内クリスマス会
	23	昼食会		21	個別対応遊び（クリスマスケーキ作り）
	24	個別対応遊び（アイロンビーズ）	27	昼食会	
	30	昼食会		5	母子生活支援施設協議会 新春母と子の集い
	30～ 8/1	母子生活支援施設協議会 児童キャンプ（香住）		1	11 個別対応遊び（六甲山牧場） 18 昼食会 25 新年会
8	2	昼食会	2	3	節分（巻き寿司・豚汁） 個別対応遊び（巻き寿司作り）
	7	個別対応遊び（水遊び）		8	昼食会
	9	昼食会		9	ランドセル寄贈
	20	個別対応遊び（デイキャンプ） 昼食会	22	昼食会	
	22	料理教室招待		3	ひな祭り（鮭寿司・豚汁）
	23	昼食会		7	母子生活支援施設協議会
	24	地藏盆	3	～9	児童スキー（ハチ高原）
	27	昼食会		15	昼食会
				25	昼食会
			26	個別対応遊び（キッザニア甲子園）	

## 8. 《学習指導》

対象者	頻度	内容
小学生	各児童週1～2回	国語・算数・英語（月に1度、4年生以上の児童） 個々の能力に沿って、担当職員がプリントを作成し、学校の宿題後に行った。（児童の能力に合わせて、必要な児童にはワークも購入した。） 学習支援が必要な児童は事務所で毎日、宿題をする様にした。
	夏・冬・春の長期休みは、毎日（月～金）1時間	国語・算数の宿題。終了している場合は、他の科目の宿題。
中学生	週1回	英語・数学。個々の能力に沿って、担当職員がプリントを作成した。 中3には受験前、個別に学習指導をした。
	テスト前は2日間連続	テスト範囲。
	夏・冬・春の長期休みは、毎日（月～金）1時間	英語・数学の宿題。終了している場合は、他の科目の宿題。

## 9. 《会議》

頻度	会議名		
月1回	職員会議	支援会議	
	リフレ委員会	リスクマネジメント会議	リーダー・サブリーダー会議
年2回以上	三者連絡会議（施設、こども福祉係・保護係等の各担当者）		

### ①職員会議（月1回開催）

昨年度は準備不足等が原因で予定の時間を大幅に過ぎる事があったが、今年度は、その改善に努め、特に大きな問題がない限りは予定の2時間を大幅に過ぎる事はなかった。来年度も有意義な会議に出来る様、進め方については改善していきたい。

### ②支援会議（月1回開催）

昨年度は入所者の処遇に関して、目標（目的）を決めず、先に処遇方法を話し合う事が多かったので、今年度は先に目標（目的）を話し合う事を心掛けた。結果、今までより広い視野を持ち、話し合う事が出来たので、質の高い処遇が行える様、今後も会議を進めていきたい。

### ③リスクマネジメント会議（月1回開催）

1ヶ月分のヒヤリハット、事故報告書・相談記録・苦情報告書を議題に上げ、改善策等を話し合った。ヒヤリハットでは、原因に対して、時折、職員間の相違があったので、少しでもリスクが軽減出来る様、原因の解明に努め、価値観の共有化を図っていきたい。

### ④リーダー・サブリーダー会議（月1回開催）

今後の予定や人事等、施設としての方向性を施設長、リーダー、サブリーダーで協議した。

### ⑤リフレ委員会（月1回開催）

リフレ委員長を主とし、リフレッシュ保育に関する事を協議した。今年度より始めた、祝日2人体制の人員配置等についても話し合い、予約人数を基に配置の有無を検討した。来年度もリフレッシュ保育事業を通し、地域貢献が出来る様、会議を行っていきたい。

### ⑥三者連絡会議（年2回以上開催）

今年度も施設と役所（福祉）の方で入所者の現況報告を行った。今後も各機関が協力し、支援に携わっていける様、内容のある会議を進めていきたい。

## 10.《リフレッシュ保育》

①25年度年間延べ1,597人(昨年度年間延べ1,269人)

→前年度より328人、利用人数が増えた。固定の利用者が3名(3名共、週3~4日利用)、昨年度より増えたのが要因として考えられる。24年度は大幅に利用者が減っていたので、今年度は増加対策として祝日の職員の出勤人数を1名増やし、利用者枠を広げた。直接的な大きな効果はあまりなかったが、予約の枠を広げる事で、今までキャンセル待ちで、他施設を利用をしていた利用者が利用するという効果は感じられた。来年度も様子を見ながら、必要に応じて人員の配置を行っていきたい。

### 平成25年度 月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H25	125	138	135	122	122	152	140	135	160	135	94	139
前年比	+2	+62	+42	-7	+28	+42	+22	+33	+39	+45	-8	+28

### 平成25年度 祝日利用者数

	7/15	9/16	9/23	10/14	11/4	11/23	12/23	12/29	12/30	12/31	1/13	2/11	3/21
予約人数	20	19	17	18	17	17	16	20	15	12	14	10	12
利用人数	13	15	11	15	13	15	10	15	10	8	10	7	8

・1人体制の受け入れ可能人数→13名

・2人体制の受け入れ可能人数→20名

※12/23以降の祝日は、予約人数が少ない場合や、実習生がいる場合は1人体制にした。

→12/23、12/31、2/11、3/21は1人体制。

## 11.《リスクマネジメント報告》

①25年度ヒヤリハット報告件数・・・75件(学童保育は除く)

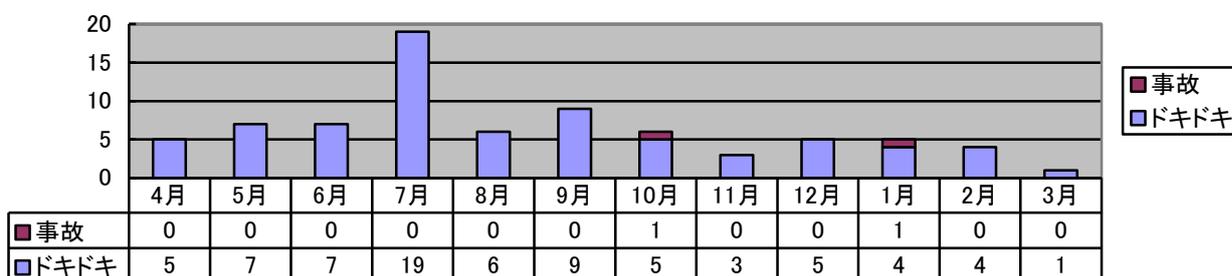
※24年度報告件数74件(学童保育は除く)

→7月が他の月に比べ多いが夏休み等とは関係なく、職員による事務的なミスが多かった。

10月の事故は戸外へ遊びに行っている際に起こったケガ。(入所児童)

1月の事故は行事中に起こったケガ。(職員)

ヒヤリ報告(件数)



②25年度ヒヤリハット以外のケガ報告件数(ケガノート) ※学童保育は除く

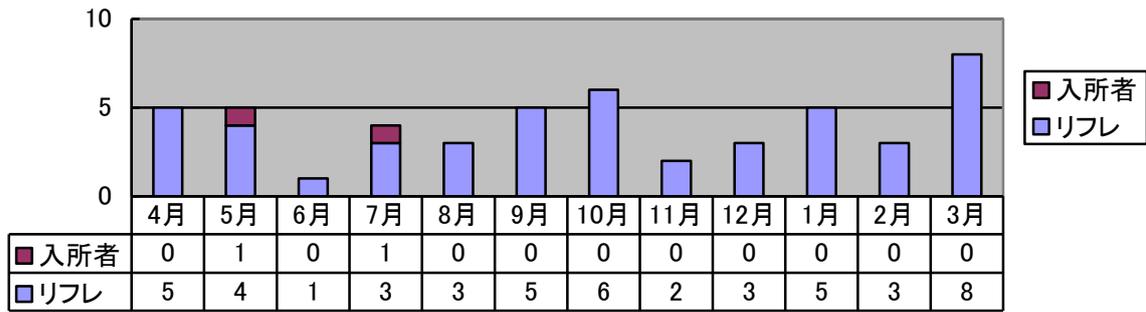
リフレ・・・48件 入所者・・・2件

※24年度報告件数(学童保育は除く)

リフレ・・・73件 入所者・・・0件

→リフレの発生数が大幅に減少したが不慮のケガが多いので、特記事項はなし。

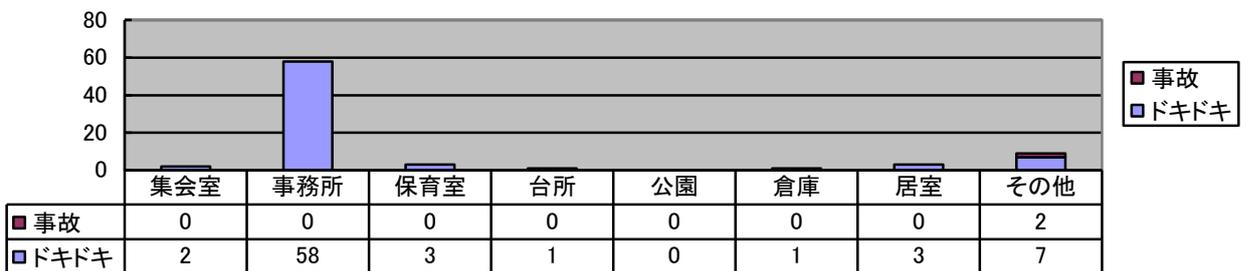
ケガ報告(件数)



③発生場所別件数

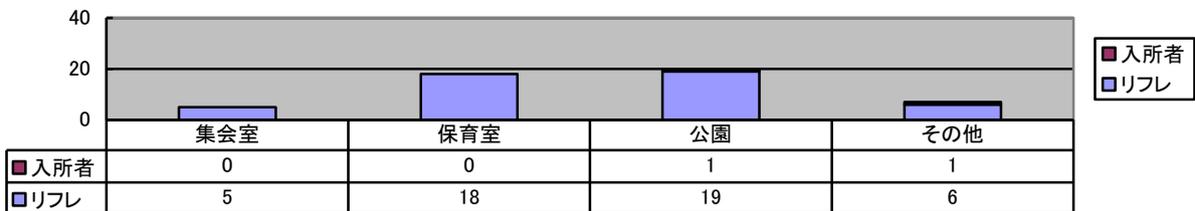
→職員による事務的ミスが多いので、事務所が多い。

ヒヤリ報告(場所)



→リフレッシュ保育児童は保育室や公園で過ごす事が多く、発生場所の件数もそれに比例して多い。

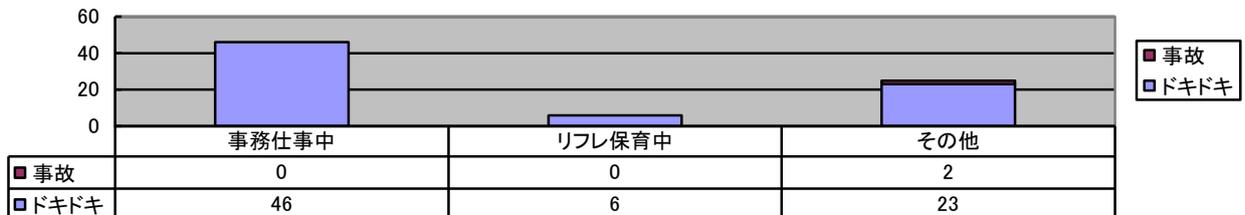
ケガ報告(場所)



④発生状況別件数

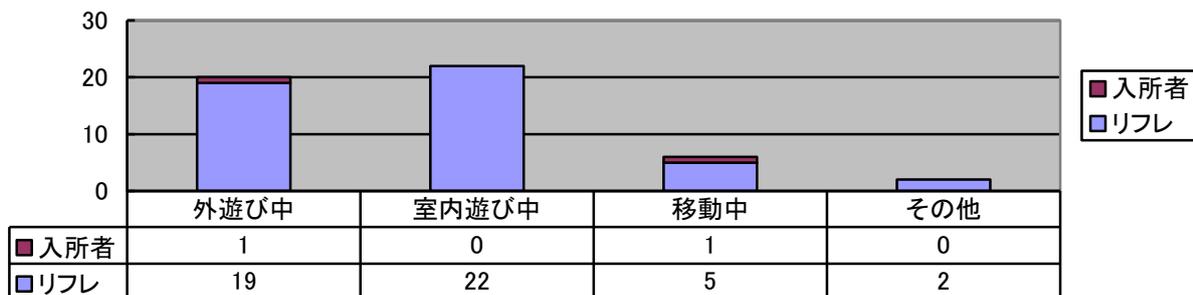
→発生場所別件数と同様、職員による事務的ミスが多いので、事務仕事中が多い。

ヒヤリ報告(状況)



→遊んでいる時に転んだり等、遊びの中で起こる不慮のケガが多い。

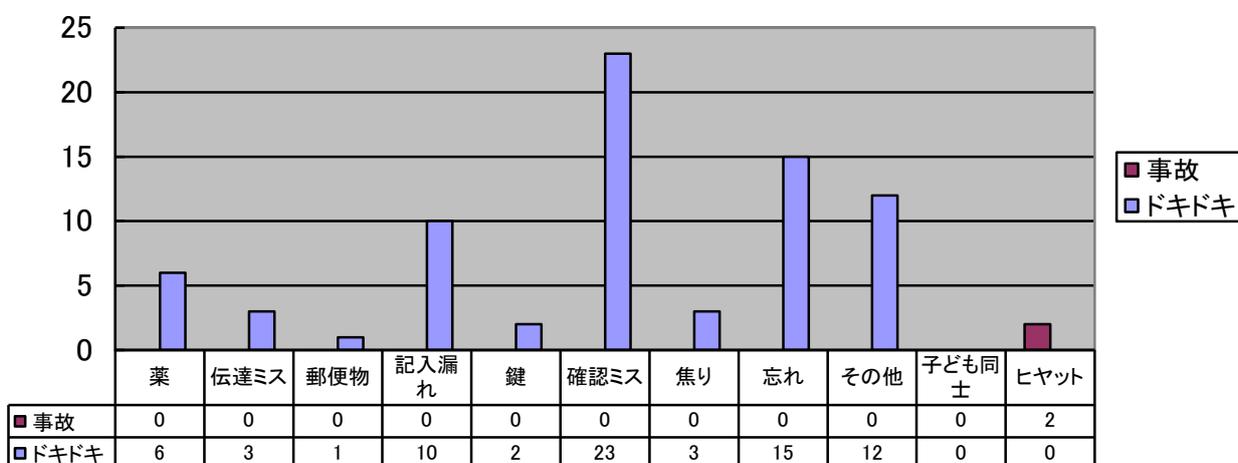
ケガ報告(状況)



⑤発生内容別件数

→職員による、事務的ミスの中で、昨年度と同様、確認ミスが一番多い。

ヒヤリ報告(内容)



→転ぶ等のケガが多いので、擦り傷や打ち身が多い。

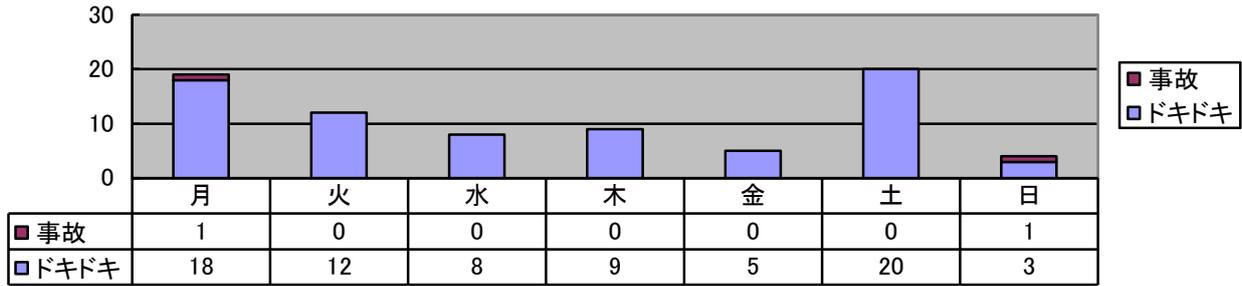
ケガ報告(内容)



⑥曜日別件数

→曜日によっての特記事項はないが、特に月曜日と土曜日が多い。

ヒヤリ報告(曜日)



⑦時間帯別件数

→職員が事務作業を行う、9～21時にかけてが多い。

ヒヤリ報告(時間)



⑧まとめ

- ヒヤリ→今年度、ヒヤリハット報告として挙げた中で、5件、“思い込み”が原因というものがあつた。この原因に関しては、未然に防ぐ難しさがあるので、件数に関係なく、大きな課題として捉えたい。こうした事が大きなリスクに繋がっていくので、日頃より職員間で価値観の共有化を図り、積極的に声掛け等を行い、リスクの軽減に努めていきたい。
- ケガ報告→未然に防ぐ事が難しい不慮のケガが多かつた。ケガをした後、きちんとした処置が出来る様、日頃より救急セットの確認をする等、リスクに対する意識を高めていきたい。

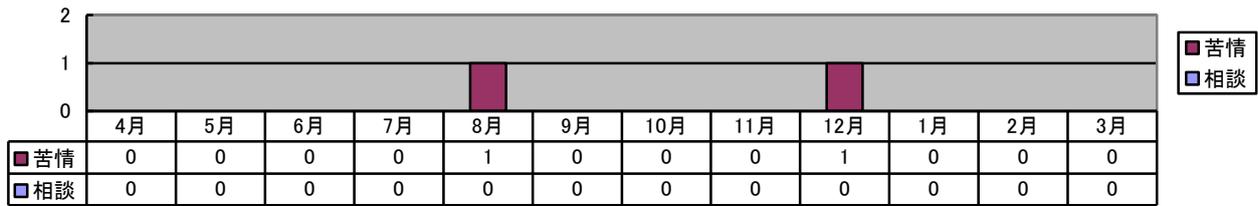
1 2. < 苦情・相談結果報告 > 苦情の定義→施設長が状況を見て、苦情か相談かを判断する。

件数…苦情2件、相談0件

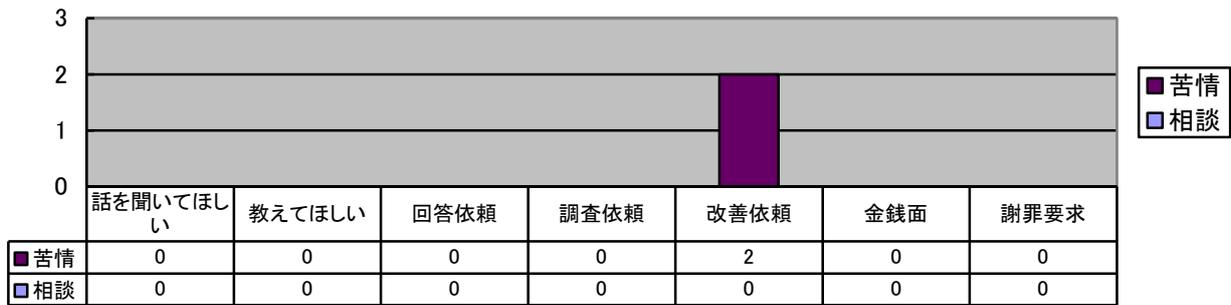
○報告件数

平成25年度				平成24年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	2件	2件	0件		3件	0件	3件

苦情・相談報告(件数)



苦情・相談報告(要望)



○主な内容 (全て入所者)

- ・(8月) 居室のエアコンが壊れたので、早く新しい物に取り替えてほしい。
- ・学童児童に施設内のルールを守る様伝えてほしい。

○まとめ

苦情が2件で、相談は0件だった。苦情の2件は全て入所者からで、施設での生活に関する事だった。今後も、安心して整った環境で生活出来る様、相談や苦情があった場合は、職員で話し合い、改善に努めていきたい。

1.3. 《総括》

24年度の課題として上がった、より質の高い支援と業務の効率化を図る為に、25年度は、事業計画に“中長期ビジョン”と“行動計画”を新たに加え、目的を明確化する事の大切さを会議等を通し、職員に伝えた。その結果、会議では、まず目的を明確にしてから話し合いを行ったり、支援面でも入所者と一緒に目標を決めてから支援方法を考える等、至らない所もまだ沢山あるが、少しずつ変化は見られてきた。この様な職員の資質の向上がエンパワメントとなり、入所者にも良い影響を与えていくと思うので、26年度も全職員がチームとして同じ目標に向かって進める様、価値観の共有化を図っていきたい。